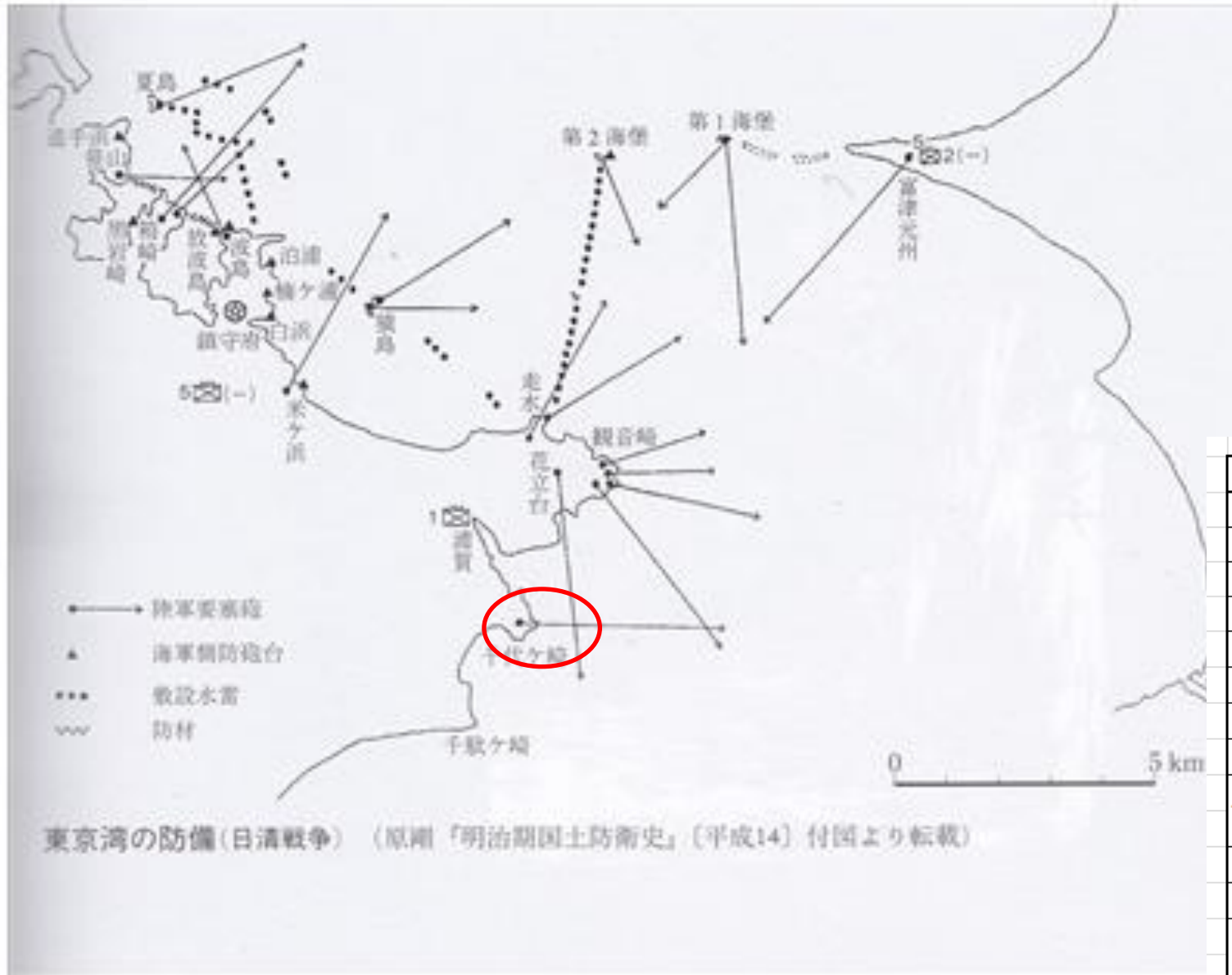


千代ヶ崎砲台跡

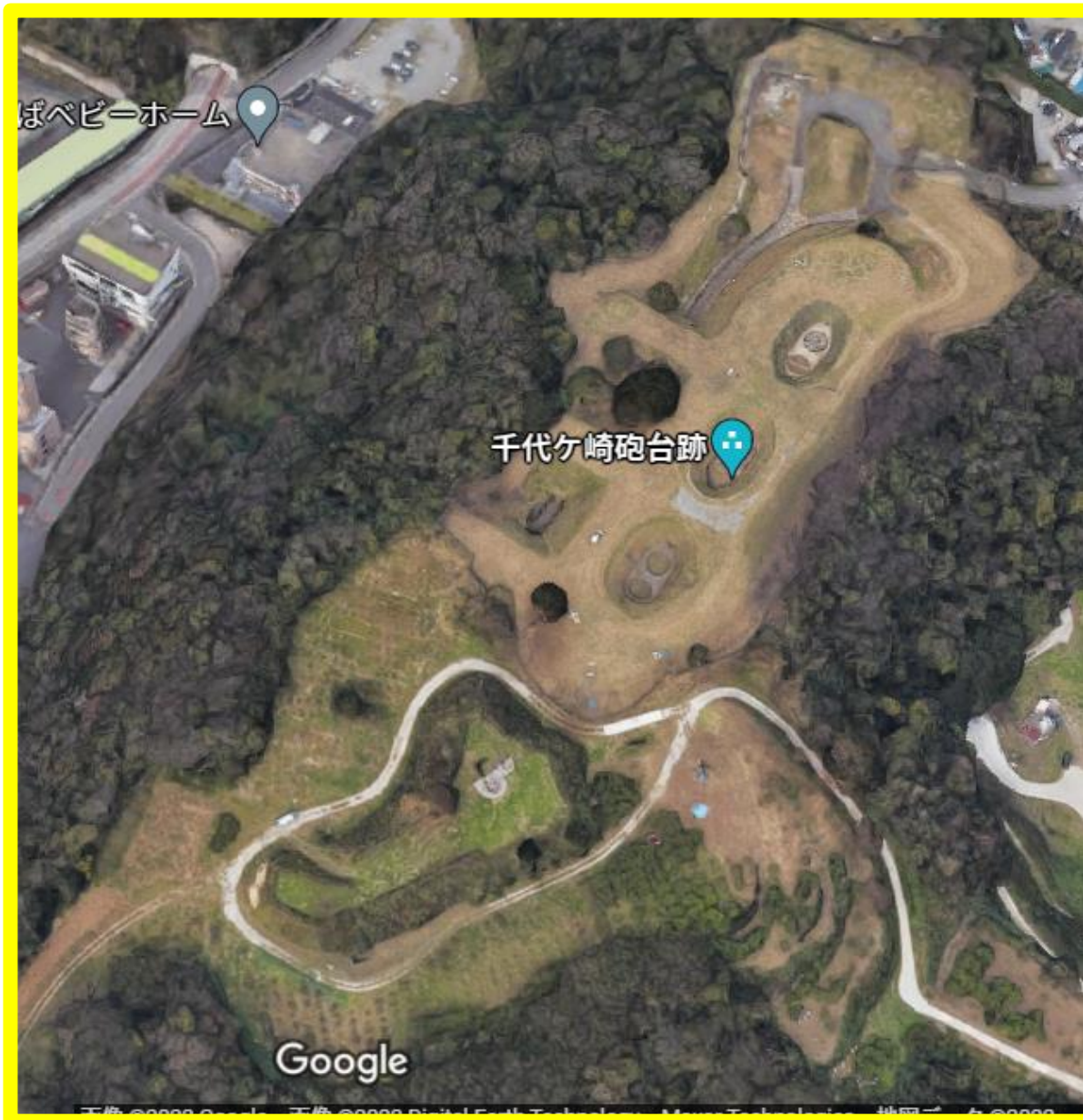


横須賀と言うと海軍の色彩が強いのですが、陸軍も不入斗に重砲連隊が駐屯していました。

この海岸砲台は陸軍が運用しています。

起工年	明治初期から中期における砲台群		
1881(M14)	第一海堡(1891-1890)完成まで9年		
1882(M15)			
1883(M16)			
1884(M17)	観音崎第1砲台	観音崎第2砲台	猿島砲台
1885(M18)			
1886(M19)	走水低砲台		
1887(M20)	観音崎第4砲台		
1888(M21)			
1889(M22)	笹山砲台	箱崎高砲台	夏島砲台
	第二海堡(1889-1914)完成まで25年		
1890(M23)	波島砲台		
1891(M24)	米ヶ浜砲台		
1892(M25)	小原台堡壘	花立台砲台	千代ヶ崎砲台
	第三海堡(1892-1921)完成まで30年		

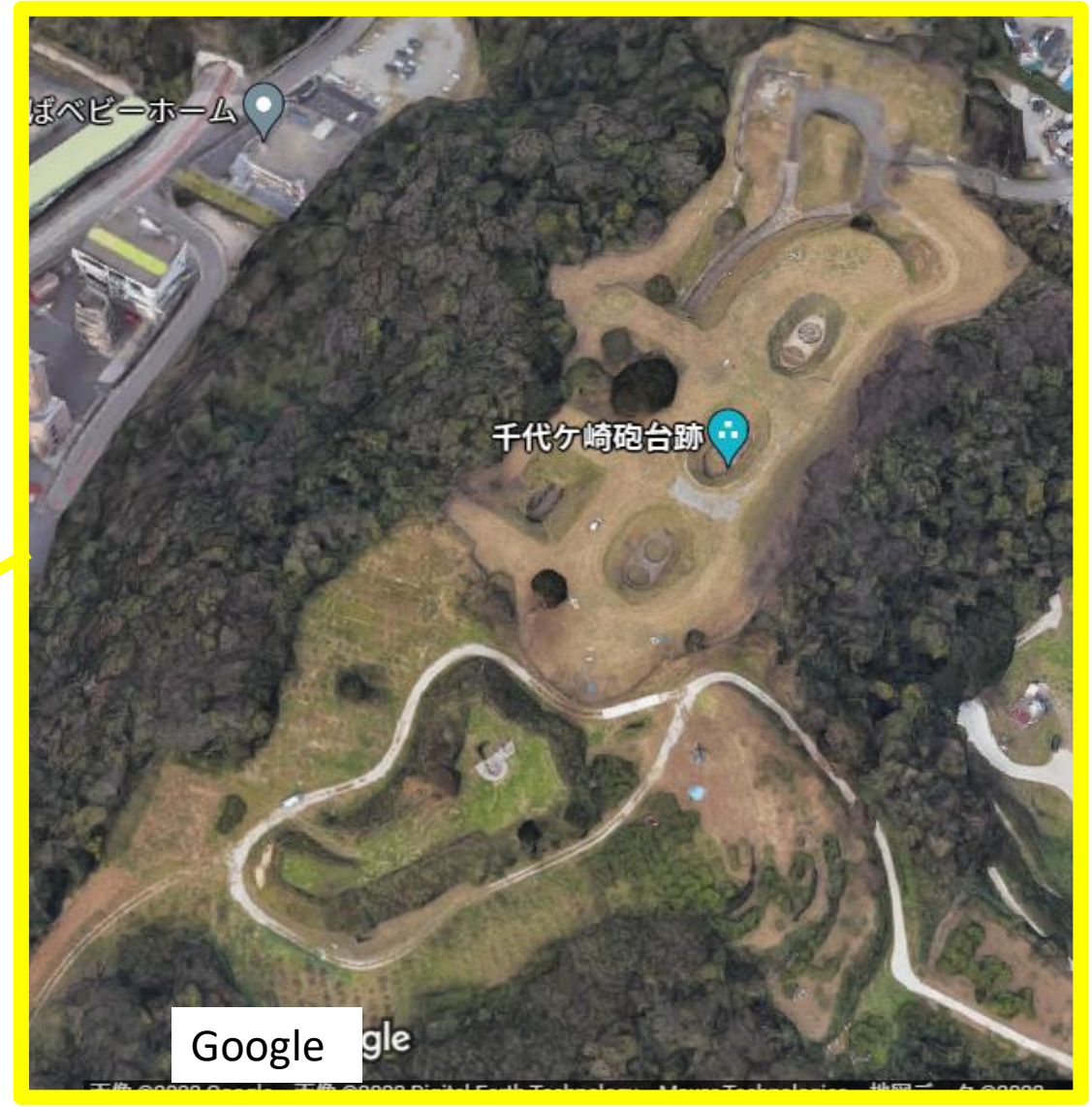
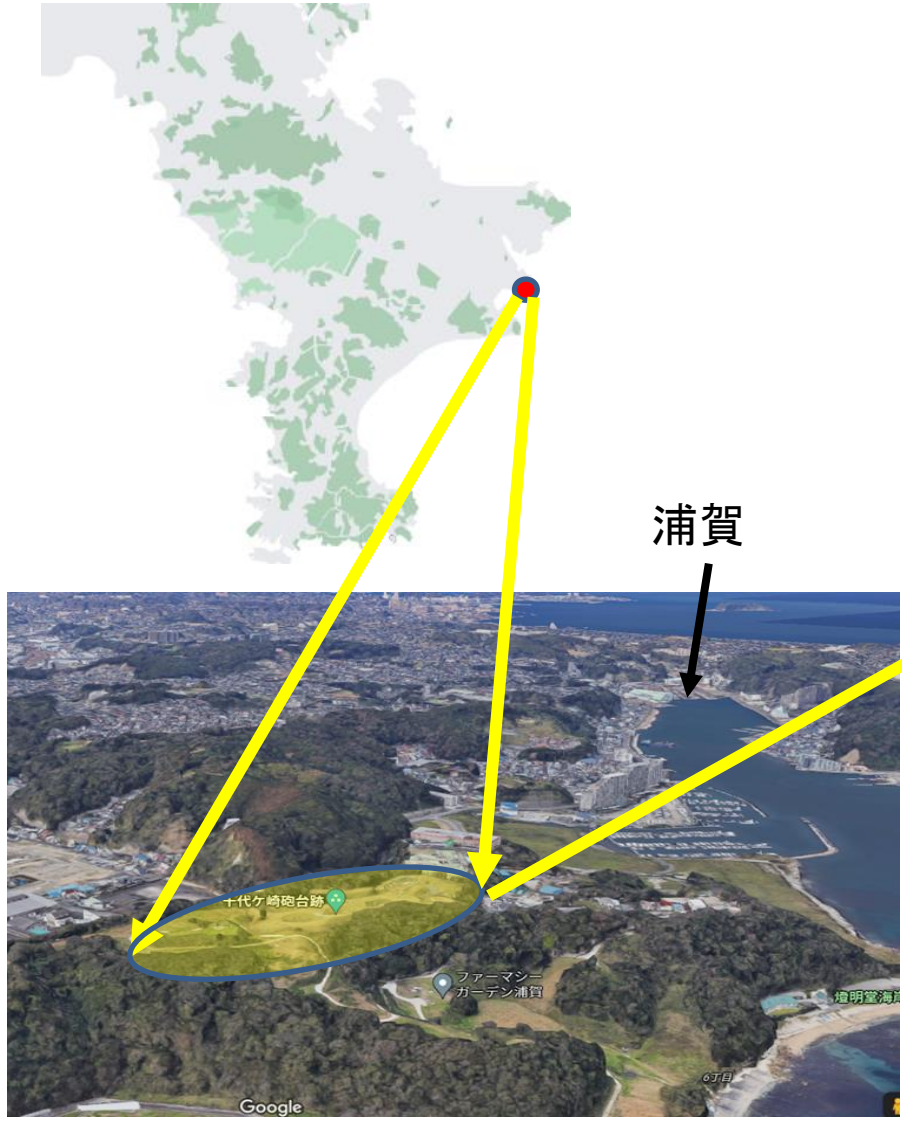
千代ヶ崎砲台の跡



1884年(明治17年)に清仏戦争が始まり、再び東京湾の防備の必要性が叫ばれ始めます。

千代ヶ崎の砲台はその最後の頃1892年(明治25年)に着工されます。
その2年後の1894年(明治27年)に、は日清戦争が勃発しています。

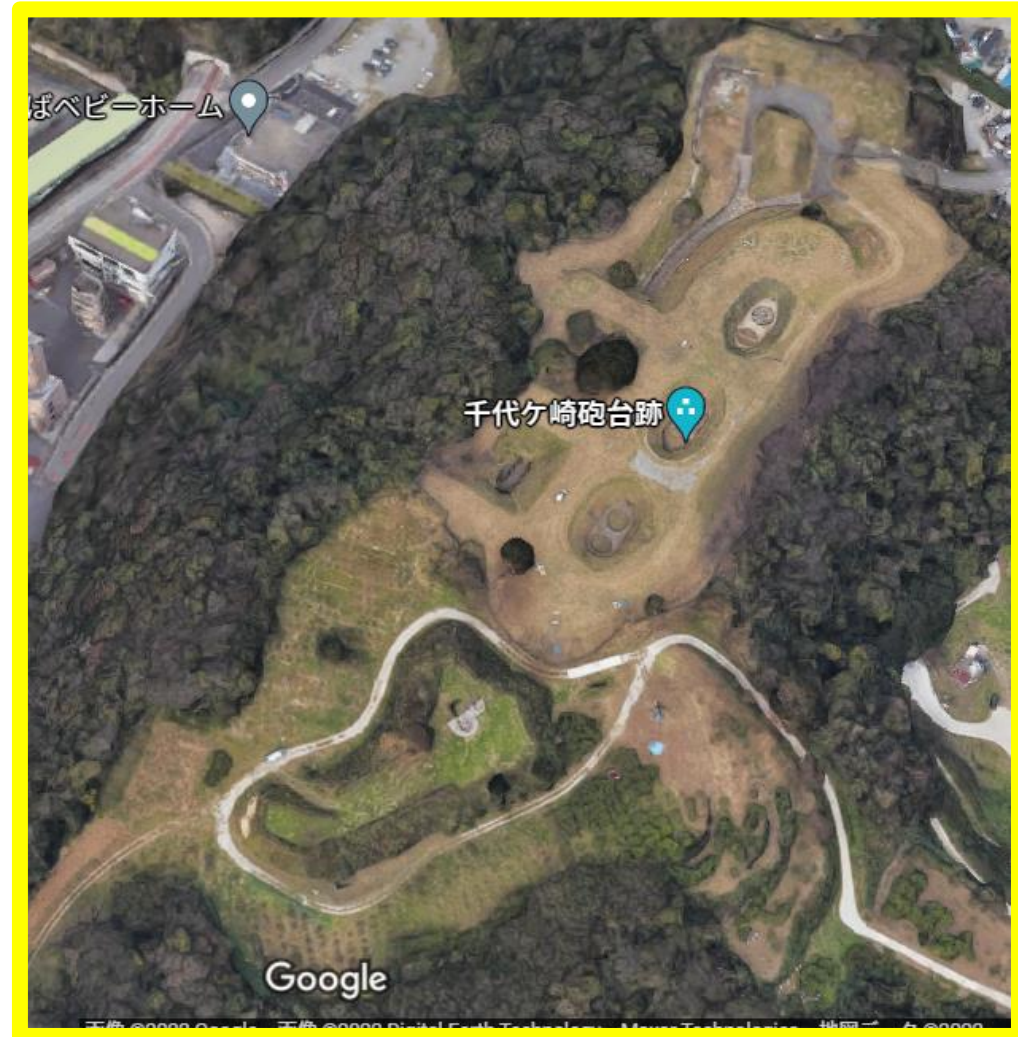
戦後、米軍に接收された後防衛省に変換され、海上自衛隊の通信所として使用されていましたが、所管換えになり、2021年から一般に公開されています。



千代ヶ崎砲台(明治28年完成)内部



千代ヶ崎砲台(28cm榴弾砲6門を設置)



日露戦争の旅順攻略に使用された28センチ榴弾砲



バルチック艦隊が極東まで来襲するまでに、なんとかとも旅順のロシア東洋艦隊を動けなくする必要性を感じていた海軍は、陸軍に203高地からの旅順港に停泊している、ロシア極東海軍の攻撃を要請します。

その攻撃に、東京湾の陸上砲台等から18基の28センチ榴弾砲を移送し使用され、なんとかバルチック艦隊が極東に来襲するまでに、撃破することができたといわれている。

実態は砲撃の効果はそれほどでもなかったようであるが、東郷連合艦隊がバルチック艦隊が来襲するまでの間、安心して修理、補給に従事できた効果はあったものとする。